

神楽坂大學講座
第165回 神楽坂まちづくりすまいづくり塾

庚申塔と筑土八幡神社

語り手： さいとう しげみち 齋藤 成蹊さん（筑土八幡神社 宮司）

開催日：平成28年 7月 1日（金）
19:00 ~ 21:00

会場：高齢者福祉施設「神楽坂」1階 地域会議室（新宿区矢来町104）
最寄り駅：東西線「神楽坂」（アユミギャラリー斜め前）

- 庚申塔は、かのえさる 庚申の日に一晩中寝ないで夜を明かす こうしんまち 庚申待に由来する塔です。
- 通常庚申塔は、しょうめんこんごう 青面金剛や「見ざる・言わざる・聞かざる」の3匹の猿を刻んだものが多いが、筑土八幡神社の庚申塔は、雌雄2匹の猿に桃の実を配した大変珍しいもので、縁結びの神・交通守護の神としても古くから人々に信仰されてきました。
- 筑土八幡神社は、今から1200年ほど前に、武蔵国豊嶋郡牛込の里に大変熱心に八幡神を信仰する翁の夢に神霊が現れ、「われ、汝が信心に感じ跡をたれん」と言われたので、翁は不思議に思い、目をさますとすぐに身を清めて拝もうと井戸のそばへ行ったところ、かたわらの一本の松の樹の上に細長い旗のような雲がたなびいて、雲の中から白鳩が現われて松のこずえにとまった。翁はこのことを里人に語り、しめなわ 神霊の現れたもうたことを知り、すぐに注連縄をゆいまわしてその松を祀った。その後、伝教大師がこの地を訪れた時、この由を聞いて神像を彫刻し祠に祀った。その時に筑紫の宇佐の宮土をもとめて礎としたので、筑土八幡神社と名付けられたといわれています。
- 今回は、筑土八幡神社の宮司 齋藤成蹊さんをお迎えし、庚申塔や庚申信仰とともに、筑土八幡神社の歴史についても語っていただきます。
- 皆様のご参加をお待ちしています。

- 定員：約20名
- 参加費：1000円
- 主催：NPO法人粋なまちづくり倶楽部
- 共催：神楽坂まちづくりの会
- お問い合わせ 粋なまちづくり倶楽部 事務局
・電話 050-3558-6260
・メール：
ikimachi.setsume@gmail.com
・HP：<http://ikimachi.net/>
*予約は不要です。当日直接会場にお越し下さい

